Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

テュートリアル課題　もの忘れ?

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-08-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30676

2010年度　　Block. 4

課　題　　No. 5

課題名：もの忘れ？

課題作成者：精神医学　　金井貴夫

課題シート

2010-B4-T2-5
もの忘れ？

シート1

記村有吉さん（75歳）は、菓子職人です。1ヶ月前から急にもの忘れが激しくなり、菓子を上手く作ることができなくなりました。数分前に聞いた物の名前も覚えられなくなりました。自分でも「おかしい」と自覚していましたが、娘に連れられてA病院総合診療科を受診しました。

課題シート

2010-B4-T2-5
もの忘れ？

シート2

A病院の総合診療科の担当医師は、考えられる疾患・病態を想定しながら医療面接と身体診察を行い、鑑別診断に必要な検査を依頼しました。

課題シート

2010-B4-T2-5
もの忘れ？

シート3

総合診療科の担当医師は、抑うつと認知機能障害を認めるため、同日中に記村さんを精神科に紹介しました。
精神科の初診担当の誠心医師は、診察の結果、器質性の脳疾患を疑って脳MRI検査を依頼し、そのMRI検査が行われる1週間後に診察を予約しました。

課題シート

2010-B4-T2-5
もの忘れ？

シート4

1週間後の診察日、記村さんは自立歩行できず、娘さんに付き添われて車椅子で診察室に入ってきました。記村さんも娘さんも入院を希望しています。診察の前に、精神科の誠心医師は、脳MRIの結果をみて、「どのように告知したらよいか」と悩みました。胸部単純エックス線の結果も返ってきました。

課題シート

2010-B4-T2-5
もの忘れ？

シート5

原発性肺がんが判明し、呼吸器科病棟で入院になりました。
入院中は、脳外科も併診し、ステロイドや利尿剤の投与によって認知機能や失調歩行は若干改善しました。咳嗽や呼吸困難感も改善し、自宅で療養する方向で、娘さんが介護保険の申請を行いました。
自宅に退院した記村さんは、2週間に1度の訪問診療、1週間に1度の訪問看護、週に2日のヘルパー派遣と配食サービスを導入し、安定した状態で自宅で療養できました。また少しずつお菓子を作れるようになり、本人も家族も素敵な時間を過ごしました。